

市内大学生等地元就職促進施策検討に係る
ヒアリング等調査業務

報 告 書

平成 27 年 3 月

株式会社 道銀地域総合研究所

1. 本調査の目的・概要

●本調査の目的

札幌市の人口動態においては、20代の若者の道外への転出者数が、全年代の中で最も多い状況にあり、市内の学生（大学生及び大学院生）の約4割が卒業後の進路として道外への就職を選んでいることが一因となっている。

このような状況を踏まえ、市内17大学における就職支援体制や取組をヒアリング調査によって把握し、札幌市が取り組むべき若者の道外への転出を防ぐ施策の方向性を検討するための基礎資料として活用することを目的として実施した。

●本調査の概要

①市内大学の就職支援担当部署に対するヒアリング調査

- ①-1 在学生（大学生及び大学院生）の出身地構成と就職状況の把握
- ①-2 学生に対する就職支援の体制
- ①-3 就職支援担当部署の業務内容
- ①-4 就職支援の取組の実施状況
- ①-5 学生の就職活動の意識や傾向
- ①-6 学生の就職活動における市内企業の位置づけ
- ①-7 各大学における就職支援策の課題
- ①-8 札幌市に求める就職支援施策

②ヒアリング調査結果の分析と調査報告書の作成

- ②-1 ヒアリング調査結果の分析
- ②-2 調査報告書の作成

③次年度に実施する調査に伴う準備

- ③-1 アンケート調査項目の検討と調査票レイアウトの作成
- ③-2 市内15大学への平成27年度調査実施に係る協力依頼

2. 市内大学の概況

①各大学の学部・学科編成

札幌市内には、17 大学（45 学部）があり、その定員は 9,380 人となっている。

■ 札幌市内大学一覧（平成 26 年度） ■

設置区分	学校名	学部名	学科・課程名	入学定員	学長名	郵便番号	住 所	電話番号	
国立	北海道大学	文	人 文 科 学 科	185 (10)	山口 佳 三	060-0808	(本部) 札幌市北区北8条西5丁目	011-716-2111	
			教 育 学 科	50 (10)			(文学部) 札幌市北区北10条西7丁目		
		法	法 学 課 程	200 (10)			060-0811		札幌市北区北11条西7丁目
			計	10					
		経済	経 済 学 科	100			060-0809		札幌市北区北9条西7丁目
			経 営 学 科	90					
		理	計	190					
			数 学 科	50			060-0810		札幌市北区北10条西8丁目
		物 理 学 科	35						
		生	化 学 科	75					
			地 球 惑 星 科 学 科	80					
		計	計	60					
			計	300					
		医	医 学 科	107			060-8638		札幌市北区北15条西7丁目
			保 健 護 学 専 攻 科	[5]					
		看	放 射 線 技 術 科 学 専 攻 科	70 (10)					
			検 査 技 術 科 学 専 攻 科	37 (3)					
		理	理 学 療 法 学 専 攻 科	37 (3)					
			作 業 療 法 学 専 攻 科	18 (2)					
		計	計	18					
			計	287 (20)					
		歯	歯 学 科	53			060-8586		札幌市北区北13条西7丁目
			計	50					
薬	薬 科 学 科	30	060-0812	札幌市北区北12条西6丁目					
	計	80							
工	応 用 理 工 系 学 科	160	060-8628	札幌市北区北13条西8丁目					
	情 報 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 学 科	(10) 180							
機	機 械 社 能 工 学 科	120							
	環 境 社 会 工 学 科	210							
計	計	670 (10)							
	計	160							
農	生 物 資 源 科 学 科	36	060-8589	札幌市北区北9条西9丁目					
	応 用 生 物 機 能 化 学 科	30							
森	森 産 産 科 学 科	35							
	畜 産 産 科 学 科	36							
生	生 物 産 産 科 学 科	23							
	環 境 工 学 科	30							
計	農 業 経 済 学 科	25							
	計	215							
獣	共 同 獣 医 学 課 程	40	060-0818	札幌市北区北18条西9丁目					
	計	2,270 (60)							
合	計	[15]							
	計	270							
北海道教育大学 (札幌校)	教育	教 員 養 成 課 程	270	本 間 謙 二	002-8501	札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号	011-778-0206		
		計	270		002-8502	札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号	011-778-0304		
合	計	270							

設置区分	学校名	学部名	学科・課程名	入学定員	学長名	郵便番号	住 所	電話番号
道立	札幌医科大学 (北海道公立大学法人)	医	医 学 科	110	島 本 和 明	060-8556	札幌市中央区南1条西17丁目	011-611-2111
			保 健 護 学 科	50				
		理 学 療 法 学 科	20					
		作 業 療 法 学 科	20					
専攻科	計	90						
	助 産 学 専 攻 科	(20)						
合	計	200 (20)						

設置区分	学校名	学部名	学科・課程名	入学定員	学長名	郵便番号	住 所	電話番号		
市立	札幌市立大学 (公立大学法人)	デザイン	デ ザ イ ン 学 科	85 (10)	運 見 孝	005-0864	札幌市南区芸術の森1丁目	011-592-2300		
			計	85 (10)						
		看護	看 護 学 科	80 (10)					060-0011	札幌市中央区北11条西13丁目
			計	80 (10)						
専攻科	助 産 学 専 攻 科	(10)								
合	計	165 (30)								

注) 平成 26 年度北海道学校一覧(北海道)及び各校HPにより作成。

設置区分	学校名	学部名	学科・課程名	入学定員	学長名	郵便番号	住所	電話番号
私立	札幌大学	地域共創学群	人間社会学域	900	桑原真人	062-8520	札幌市豊平区西岡3条7丁目3番1号	011-852-1181
			合計	900				
	東海大学 (札幌キャンパス)	国際文化	地域創造学科	110	山田清志	005-8601	札幌市南区南沢5条1-1-1	011-571-5111
			国際コミュニケーション学科	80				
		デザイン文化学科	70					
		計	240					
	生物	生物物理学	70					
		海洋生物学	70					
		計	140					
		合計	380					
	藤女子大学	文	英語文化学科	80	喜田 熱	001-0016	札幌市北区北16条西2丁目1-1	011-736-0311
			日本語・日本文学	80				
		文化総合	80					
		計	240					
	人間生活	人間生活学	80					
		食物栄養学	80					
		計	80					
		合計	240					
		合計	480					
	北星学園大学	文	英文学科	113	田村信一	004-8631	札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号 ()内は第3年次編入学定員で外数	011-891-2731
心理・応用コミュニケーション学科			(14) 90					
計			(10) 203					
経済		経済学科	152					
		経営情報学	(6) 102					
		経済法	(6) 110					
		計	(10) 364					
社会福祉		福祉計画学	(22) 85					
		福祉臨床学	(10) 85					
		福祉心理学	(10) 64					
	計	(7) 234						
	合計	(27) 801						
	合計	(73)						
北海学園大学	経済	経済学科(一部)	160	木村和範	062-8605	札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 ()内は第3年次編入学定員で外数	011-841-1161	
		経済学科(二部)	75					
		地域経済学(一部)	140					
		地域経済学(二部)	45					
		計	420					
	経営	経営学科(一部)	160					
		経営学科(二部)	100					
		経営情報学(一部)	140					
		計	400					
	法	法律学科(一部)	155					
		法律学科(二部)	(20) 120					
		政治学(一部)	100					
政治学(二部)		(10) 60						
	計	435						
	計	(30)						
人文	日本文化学科(一部)	100						
	日本文化学科(二部)	40						
	英米文化学科(一部)	95						
	英米文化学科(二部)	30						
	計	265						
工	社会環境工学	60						
	建築工学	70						
	電子情報工学	70						
	生命工学	60						
	計	260						
	合計	1,780						
	合計	(30)						
北海道科学大学	工	機械工学	92	苫米地 司	006-8585	札幌市手稲区前田7条15丁目4-1	011-681-2161	
		情報電子工学	90					
		電気電子工学	80					
		建築都市環境学	80					
		計	50					
		計	392					
	保健医療	看護学	80					
		理学療法	40					
		義肢装具学	50					
		臨床放射線学	70					
	計	50						
	計	290						
未来デザイン	メディアデザイン	80						
	人間社会学	50						
	計	130						
	合計	812						
北海道医療大学 (札幌あいの里キャンパス)	心理科	臨床心理学	75	新川 詔夫	002-8072	札幌市北区あいの里2条5丁目1番地	011-778-8931	
		言語聴覚療法	(2) 60					
	計	(10) 135						
		計	(12) 135					
	合計	(12) 135						

設置区分	学校名	学部名	学科・課程名	入学定員	学長名	郵便番号	住 所	電話番号	
	北海道商科大学	商	商観光産業学	100	森本正夫	062-8607	札幌市豊平区豊平6条6丁目10	011-841-1161	
			産業学	50					
			合 計	150					
	札幌国際大学	人文	現代文化心理学	心理学	75	越塚宗孝	004-8602	札幌市清田区清田4条1丁目4-1	011-881-8844
				臨床心理専攻	70				
				こども心理専攻	50				
			計	195					
		スポーツ人間	スポーツビジネス学	スポーツ学	60				
				スポーツ指導学	60				
			計	120					
	観光	観光ビジネス学	観光学	90					
			国際観光学	60					
		計	150						
			合 計	465					
	天使大学	看護栄養	看護学	看護学	87	武蔵学	065-0013	札幌市東区北13条東3丁目1-30	011-741-1051
				栄養学	85				
			合 計	172					
	札幌大谷大学	芸術	音楽学	音楽学	80	巖城孝憲	065-8567	札幌市東区北16条東9丁目1-1	011-742-1651
				美術学	70				
			計	150					
社会		地域社会学	70						
		合 計	220						
札幌保健医療大学	看護	看護学	看護学	100	稲葉佳江	007-0894	札幌市東区中沼西4条2丁目1-15	011-729-3350	
			合 計	100					
日本医療大学	保健医療	看護学	看護学	80	傳野隆一	004-0839	札幌市清田区真栄434-1	011-885-7711	
			合 計	80					

②各大学の学生数、入学者数等

平成 25 年度の学校基本調査から学生数をみると、総数は男性 30,128 人、女性 17,208 人で外国人を含めると 47,336 人となっている。

■ 学部数と学生数（平成 25 年度学校基本調査） ■

年 度 及 び 学 校	学 校 数 (設 置 者)	学 部 数	学 生 数								年 度 及 び 学 校
			総 数		昼 間		夜 間				
			総 数	# 外 国 人	男	女	男	女	男	女	
平 成 20 年 度	15	52	50,855	1,183	33,140	17,715	31,342	17,180	1,798	535	20
21 年 度	15	53	50,465	1,317	32,556	17,909	30,733	17,384	1,823	525	21
22 年 度	15	53	50,312	1,555	32,234	18,078	30,423	17,558	1,811	520	22
23 年 度	15	53	49,416	1,781	31,342	18,074	29,531	17,547	1,811	527	23
24 年 度	15	51	47,839	1,799	30,752	17,087	28,974	16,577	1,778	510	24
25 年 度	16	53	47,336	1,802	30,128	17,208	28,395	16,698	1,733	510	25
1 北 海 道 大 学	国立	13	18,043	1,440	12,835	5,208	12,835	5,208	—	—	1
2 北 海 道 教 育 大 学	国立	1	1,364	44	559	805	559	805	—	—	2
3 札 幌 医 科 大 学	道 立	2	1,462	8	879	583	879	583	—	—	3
4 札 幌 市 立 大 学	市 立	2	838	12	163	675	163	675	—	—	4
5 北 海 学 園 大 学	私 立	9	8,708	33	6,232	2,476	4,499	1,966	1,733	510	5
6 札 幌 大 学	私 立	6	3,448	198	2,563	885	2,563	885	—	—	6
7 北 星 学 園 大 学	私 立	3	3,818	7	1,752	2,066	1,752	2,066	—	—	7
8 藤 女 子 大 学	私 立	1	1,148	—	—	1,148	—	1,148	—	—	8
9 北 海 道 工 業 大 学	私 立	4	2,782	9	2,518	264	2,518	264	—	—	9
10 東 海 大 学	私 立	3	1,415	3	1,014	401	1,014	401	—	—	10
11 札 幌 国 際 大 学	私 立	3	1,341	26	777	564	777	564	—	—	11
12 天 使 大 学	私 立	1	819	—	21	798	21	798	—	—	12
13 北 海 道 医 療 大 学	私 立	1	632	—	211	421	211	421	—	—	13
14 北 海 商 科 大 学	私 立	1	733	22	440	293	440	293	—	—	14
15 札 幌 大 谷 大 学	私 立	2	679	—	140	539	140	539	—	—	15
16 札 幌 保 健 医 療 大 学	私 立	1	106	—	24	82	24	82	—	—	16

出典) 札幌市統計書(札幌市): 以下同じ。

北海道大学水産学部には、函館市所在の函館キャンパス分を含む。

藤女子大学には、23 年度まで石狩市所在の人間生活学部を含む。

平成 26 年度に実施された各大学の学部統廃合は反映されていない。

平成 26 年に開学した日本医療大学は含まない。

学部別学生数と入学志願者数、入学者数（平成25年度学校基本調査）

年度及び学校	大学院		学					学部					数			入学志願者数(学部)				入学者数(学部)			年度及び学校							
			人文科学		社会科学		理学	工学	農学	保健		家政				教育	芸術	その他	専攻科	別科	科	目		男	女	総数	男	女	総数	
			総数	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)				10)	1)	2)	3)	4)	5)	6)								7)
平成20年度	7,166	42,475	7,251	15,979	1,343	7,890	2,130	4,423	1,408	1,457	594	—	2	—	1,192	33,612	21,127	12,485	9,974	6,276	3,698	20								
平成21年度	7,145	42,206	7,192	15,992	1,326	7,363	2,138	4,616	1,388	1,465	726	—	—	—	1,114	33,201	20,518	12,663	9,873	6,132	3,741	21								
平成22年度	7,202	41,988	7,141	15,975	1,321	7,000	2,121	4,779	1,397	1,525	729	—	9	—	1,113	32,282	19,998	12,284	9,915	6,239	3,676	22								
平成23年度	7,325	41,011	6,748	15,043	1,007	5,871	1,631	4,469	1,416	1,501	720	2,605	10	—	1,070	30,851	18,630	12,221	9,331	5,642	3,689	23								
平成24年度	7,334	39,515	6,807	14,394	1,155	5,611	1,602	4,492	368	1,521	868	2,697	30	—	960	32,267	20,219	12,048	9,338	5,746	3,592	24								
平成25年度	7,171	39,182	7,146	13,512	1,307	5,497	1,585	4,628	367	1,510	953	2,677	30	—	953	33,071	20,259	12,812	9,282	5,772	3,510	25								
1北海道大学	6,170	11,394	680	1,362	970	2,239	1,585	1,726	—	185	—	2,677	—	—	479	10,810	7,644	3,166	2,579	1,824	755	1								
2北海道教育大学	209	1,107	—	—	—	—	—	—	—	1,107	—	—	—	—	48	788	288	500	263	110	153	2								
3札幌医科大学	288	1,021	—	—	—	—	—	1,021	—	—	—	—	20	—	123	790	446	344	200	103	97	3								
4札幌市立大学	92	722	—	—	—	—	—	348	—	—	374	—	10	—	14	627	124	503	170	24	146	4								
5北海道学芸大学	134	8,456	1,302	5,883	—	1,271	—	—	—	—	—	—	—	—	118	7,256	5,301	1,955	1,995	1,445	550	5								
6札幌大学	38	3,344	1,594	1,750	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	66	1,254	906	346	756	572	184	6								
7北星学園大学	37	3,746	981	2,765	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	35	3,174	1,614	1,560	899	424	475	7								
8藤女子大学	—	1,144	1,144	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	1,142	—	1,142	268	—	268	8								
9北海道工業大学	56	2,719	—	495	—	1,779	—	445	—	—	—	—	—	—	7	1,317	1,165	152	668	597	71	9								
10東海大学	9	1,401	856	—	337	208	—	—	—	—	—	—	—	—	5	2,175	1,568	607	403	286	117	10								
11札幌国際大学	25	1,297	619	460	—	—	—	—	—	218	—	—	—	—	19	539	275	264	294	159	135	11								
12天使大学	61	754	—	—	—	—	—	387	—	—	—	—	—	—	4	792	32	760	185	3	182	12								
13北海道医療大学	34	595	—	—	—	—	—	595	—	—	—	—	—	—	3	1,356	472	884	146	46	100	13								
14北海道商科大学	8	709	—	709	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	417	264	153	177	100	77	14								
15札幌医科大学	—	667	—	88	—	—	—	—	—	—	579	—	—	—	12	267	72	195	173	55	118	15								
16札幌保健医療大学	—	106	—	—	—	—	—	106	—	—	—	—	—	—	—	367	86	281	106	24	82	16								

③卒業後の状況

平成 25 年度の学校基本調査から卒業後の状況をみると、卒業者の総数が 8,821 人で進学者が 1,492 人（総数に占める割合 16.9%）、就職者が 5,254 人（同 59.6%）などとなっている。

■ 専攻別の卒業後の状況（平成 25 年度学校基本調査） ■

区 分	平成 23 年度				平成 24 年度				平成 25 年度																								
	総数		男		女		総数		男		女																						
	進	就	職	者	進	就	職	者	進	就	職	者																					
卒業者総数	9,385	5,471	9,024	8,821	5,489	3,323	8,370	5,148	3,222	572	979	2,026	963	228	72	1,291	147	350	133	461	584	1	89	179	187	40	68	451	350	10	総数		
1 進 学	1,539	1,563	1,597	1,492	1,180	312	1,486	1,176	310	24	33	68	20	189	62	554	54	232	70	76	54	—	1	28	15	5	1	6	4	2	1		
2 就 職	5,096	5,199	5,059	5,254	2,937	2,317	5,012	2,747	2,265	334	683	1,413	741	26	9	581	73	90	47	158	436	1	73	120	157	24	36	242	190	52	2		
3 臨 床 研 修 医	243	241	233	241	178	63	241	178	63	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	178	63	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	
4 専修学校・外国の学校等入学者	162	192	150	146	92	54	142	89	53	33	25	28	10	1	—	11	4	4	—	6	7	—	—	3	2	3	5	4	3	1	4		
5 一時的な仕事に就いた者	440	370	275	253	181	72	236	171	65	39	26	91	21	—	24	2	—	—	—	8	1	—	1	7	4	2	10	17	10	7	5		
6 上記以外	1,838	1,866	1,866	1,670	1,405	906	499	1,223	763	460	139	201	424	170	12	113	12	24	16	27	23	—	14	18	8	6	15	182	143	39	6		
7 不詳・死亡の者	47	40	40	30	24	6	30	24	6	3	1	2	1	—	—	8	2	—	—	8	—	—	—	3	1	—	—	—	—	—	—	7	
8 《再掲》1のうち就職している者	—	—	—	1	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	
産業別就職者総数(2+8)	5,096	5,199	5,059	5,255	2,938	2,317	5,013	2,748	2,265	334	683	1,413	741	26	9	581	73	90	47	158	436	1	73	120	157	24	36	242	190	52	産業		
A~B 農 林 漁 業	20	17	26	21	17	4	21	17	4	1	3	6	1	1	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	A~B	
C 鉱業、採石業、砂利採取業	5	—	2	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	C	
D 建 設	273	302	255	302	252	50	287	239	48	6	16	40	12	—	—	189	15	—	—	—	3	—	—	1	1	3	—	15	13	2	D		
E 製 造	445	483	365	401	265	136	385	260	135	22	37	120	46	1	—	67	9	23	4	20	22	—	6	3	9	4	1	6	5	—	E		
F 電気・ガス・熱供給・水道業	24	28	24	19	5	24	19	5	1	1	9	2	—	—	—	7	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	F	
G 情報通信業	342	265	246	258	162	96	252	158	94	15	33	72	42	4	1	54	6	4	5	2	2	—	—	—	4	2	3	6	4	2	—	G	
H 運輸業、郵便業	189	181	138	172	100	72	164	93	71	19	43	44	20	—	—	27	—	2	3	—	1	—	—	—	—	1	2	—	2	8	7	—	H
I 卸売業、小売業	838	890	978	1,103	662	441	1,024	596	428	94	175	402	194	2	1	57	8	11	5	16	23	—	4	13	10	1	8	79	66	13	I		
J 金融業、保険業	413	383	402	372	189	183	358	178	180	8	69	154	105	1	—	4	3	6	—	—	—	—	—	—	—	4	2	—	1	14	11	—	J
K 不動産業、物品賃貸業	90	113	123	115	67	48	112	64	48	10	16	49	25	—	—	3	5	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1	—	—	3	3	—	K
L 学習院、専門・技術サービス業	179	161	176	183	112	71	177	109	68	11	19	44	23	1	1	32	5	12	10	1	10	—	—	—	—	—	8	—	6	3	—	L	
M 宿泊業、飲食サービス業	223	183	164	161	84	77	156	80	76	21	31	43	33	—	—	9	2	1	—	3	2	—	4	3	1	—	2	5	4	—	—	M	
N 生活関連サービス業、娯楽業	205	150	149	154	65	89	147	63	84	15	50	39	24	—	—	7	3	—	—	—	—	—	—	—	1	3	—	1	7	2	—	N	
O 教育、学習支援業	275	353	372	393	156	237	384	151	233	30	72	33	25	7	1	7	4	2	1	1	4	—	15	70	105	1	6	9	5	4	—	O	
P 医療、福祉	701	723	722	701	671	534	689	163	526	13	36	33	87	—	—	1	2	3	2	—	107	353	1	31	3	6	2	9	12	4	8	P	
Q 複合サービス事業	99	116	99	79	51	28	74	46	28	6	9	34	12	—	—	3	—	3	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	5	—	—	Q	
R サービス業(他に分類されないもの)	189	213	202	210	128	82	192	112	80	9	34	53	24	2	—	45	3	—	—	—	—	—	12	2	2	1	2	18	16	2	R		
S 公 務(他に分類されないもの)	536	583	539	573	421	152	529	381	146	44	45	232	62	7	1	60	6	19	14	7	10	—	—	—	—	11	9	1	44	40	4	S	
T 上記以外のもの	50	49	52	32	20	12	27	18	9	8	4	6	4	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	2	—	T	
就職先別就職者総数(2+8+10)	5,096	5,199	5,059	5,255	2,938	2,317	5,013	2,748	2,265	334	683	1,413	741	26	9	581	73	90	47	158	436	1	73	120	157	24	36	242	190	52	就職先		
1 進 学	1,753	1,717	1,663	1,741	1,062	679	1,685	1,018	667	140	197	468	260	14	2	257	37	60	27	61	114	—	5	12	25	6	—	56	44	12	1		
2 道 内 他 市 町 村	1,132	1,103	1,056	1,077	618	459	1,023	572	451	61	130	289	140	5	3	111	14	14	5	38	69	1	22	47	59	6	9	54	46	8	2		
3 市	2,207	2,374	2,337	2,430	1,254	1,176	2,288	1,154	1,144	133	366	652	338	7	4	213	22	16	15	60	253	—	46	61	73	12	27	132	100	32	3		

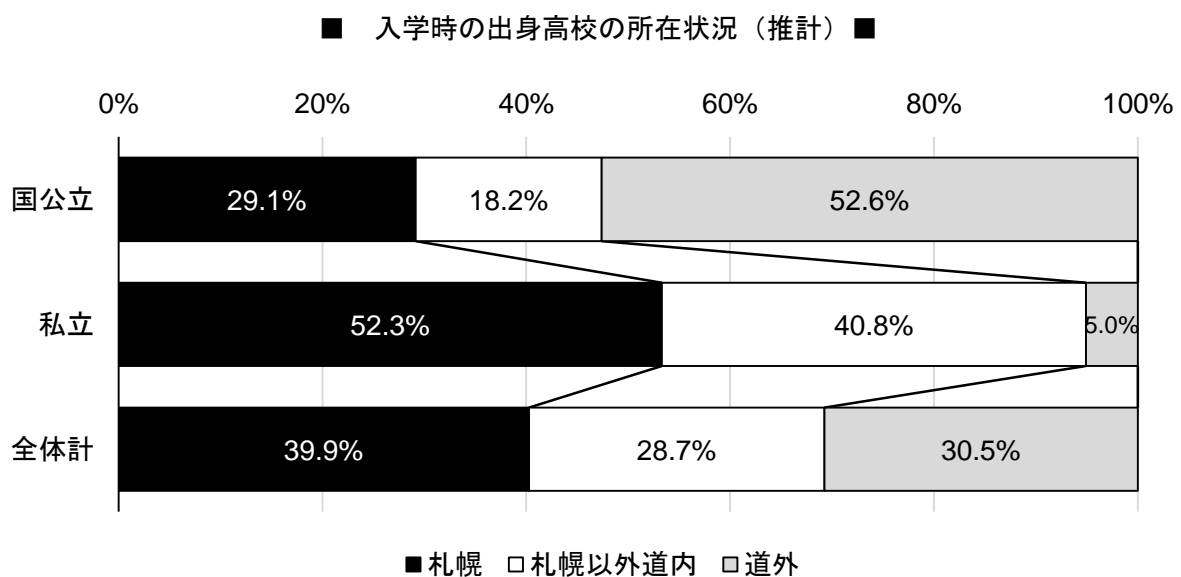
3. 市内大学の就職状況

①データからみた就職の状況

①-1 入学時の状況

今回の調査結果から入学時の状況をみると、「札幌」が国公立で 29.1%、私立で 52.3%となり、全体では 39.9%と推計された。国公立では「道外」が高く、私立で低くなっているが、それぞれの内訳をみると理系大学でも「道外」が高くなる傾向にある。

なお、平成 25 年度学校基本調査をみると、北海道にある大学入学者数は 18,757 人で、このうち北海道にある高校出身者が 14,034 人、割合は 74.8%となっており、今回の推計値 68.6%をやや上回っている。



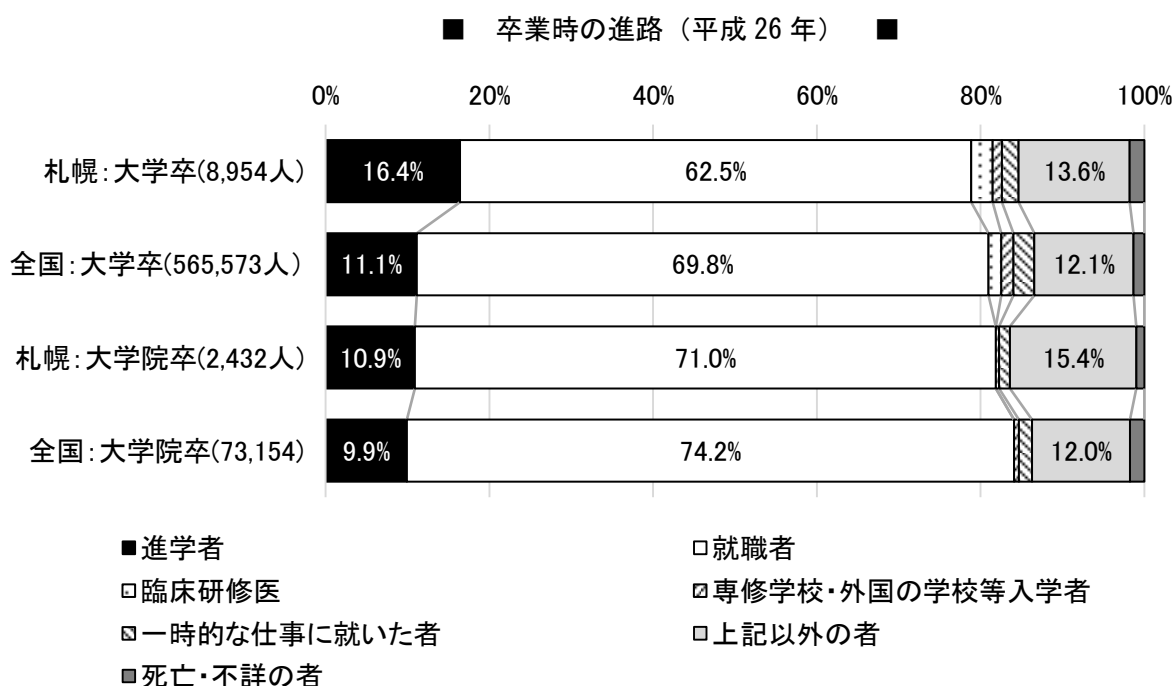
注) 入学時の出身高校の所在地について、データ提供のあった国公立大学 3 校と私立大学 8 校の状況に加え、その他のヒアリング結果等を加味し、実際の入学者数を考慮して推計した。

なお、提供されたデータは大学によって平成 20 年から 26 年まで年次にばらつきがあったが、大学ごとに大きな変動がなかったため、平均値を用いた。

①-2 就職先の状況

卒業時の進路をみると、札幌市内大学の卒業者のうち、「就職者」が62.5%、「進学者」が16.4%となっており、それぞれ全国と比べると、「就職者」が7.3ポイント下回り、「進学者」が5.3ポイント上回っている。

大学院卒業者をみてもほぼ同様の傾向にあるが、いわゆる「就職浪人」を含む「上記以外の者」が15.4%となっており、全国のそれを3.4ポイント上回るなど、就職環境は相対的に悪いと考えられる。



また、大学卒業者の産業別の就職状況をみると、大分類別で10%を超えている産業は、「卸売業、小売業」(18.0%)、「医療、福祉」(12.9%)、「公務」(10.9%)となるが、全国との対比では、「公務」が5.0ポイント高い一方、「製造業」では3.3ポイント低くなっている。

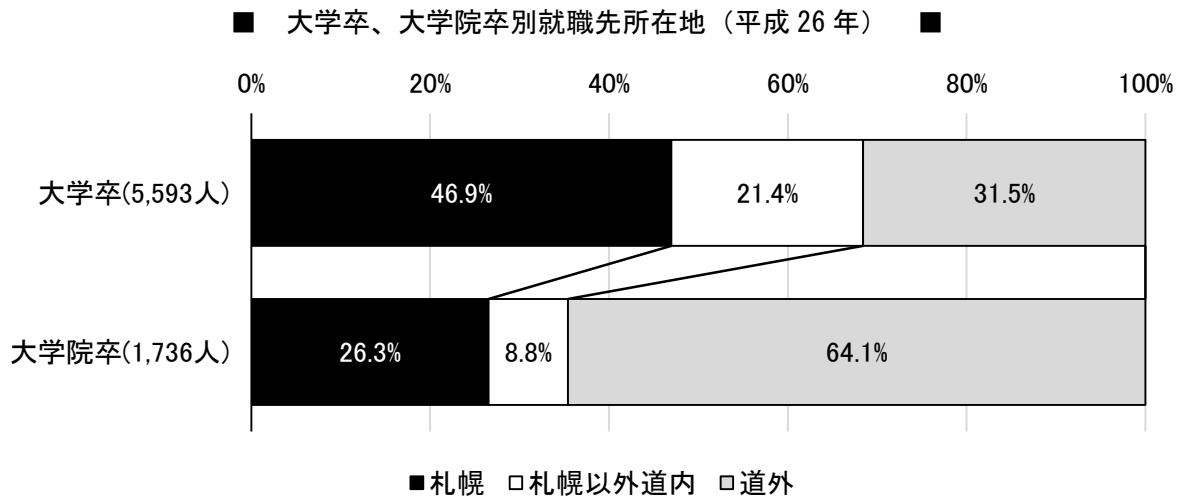
大学院卒業者をみてもこの傾向が当てはまるが、全国では理系を中心に「製造業」への就職者が41.0%となっているのに対し、札幌市内大学では30.6%となっているほか、「教育、学習支援業」が14.1%となっており、全国を5.2ポイント上回っている。

■ 産業大分類別就職先（平成 26 年） ■

産業大分類	大学卒			大学院卒		
	人数	比率	全国比率	人数	比率	全国比率
農林漁業	18	0.3%	0.3%	19	1.1%	0.4%
鉱業、採石業、砂利採取業	3	0.1%	0.0%	8	0.5%	0.2%
建設業	359	6.4%	4.8%	63	3.6%	5.1%
製造業	462	8.3%	11.6%	532	30.6%	41.0%
電気・ガス・熱供給・水道業	21	0.4%	0.4%	41	2.4%	1.6%
情報通信業	352	6.3%	7.6%	159	9.2%	11.9%
運輸業、郵便業	197	3.5%	2.9%	29	1.7%	2.1%
卸売業、小売業	1,006	18.0%	17.2%	35	2.0%	3.0%
金融業、保険業	386	6.9%	8.5%	30	1.7%	1.7%
不動産業、物品賃貸業	158	2.8%	2.9%	2	0.1%	0.5%
学術研究、専門・技術サービス業	204	3.6%	3.4%	149	8.6%	7.1%
宿泊業、飲食サービス業	160	2.9%	2.6%	5	0.3%	0.3%
生活関連サービス業、娯楽業	184	3.3%	3.3%	10	0.6%	0.6%
教育、学習支援業	371	6.6%	8.0%	245	14.1%	8.9%
医療、福祉	722	12.9%	13.4%	214	12.3%	5.3%
複合サービス事業	85	1.5%	1.3%	15	0.9%	0.4%
サービス業(他に分類されないもの)	219	3.9%	4.5%	22	1.3%	3.0%
公務(他に分類されないものを除く)	610	10.9%	5.9%	134	7.7%	5.0%
上記以外のもの	76	1.4%	1.4%	24	1.4%	2.0%

就職先の所在地を「札幌（市内）」、「札幌以外（の）道内」、「道外」別にみると、大学卒では「札幌」が 46.9%と最も多く、次いで「道外」の 31.5%、「札幌以外道内」の 21.4%となっている。

一方、大学院卒では「道外」が最も多く 64.1%、次いで「札幌」の 26.3%となっており、「札幌以外道内」は 8.8%となっている。



就職先所在地について様々な区分から見ると、男女別では「女性」の「札幌」の比率が51.9%と「男性」より8.6ポイント高くなっている。「国公立」と「私立」の別で見ると、「札幌」がそれぞれ40.1%、49.1%となっている一方、「道外」ではそれぞれ42.5%、28.3%となっており、「国公立」が「私立」を14.2ポイント上回っている。

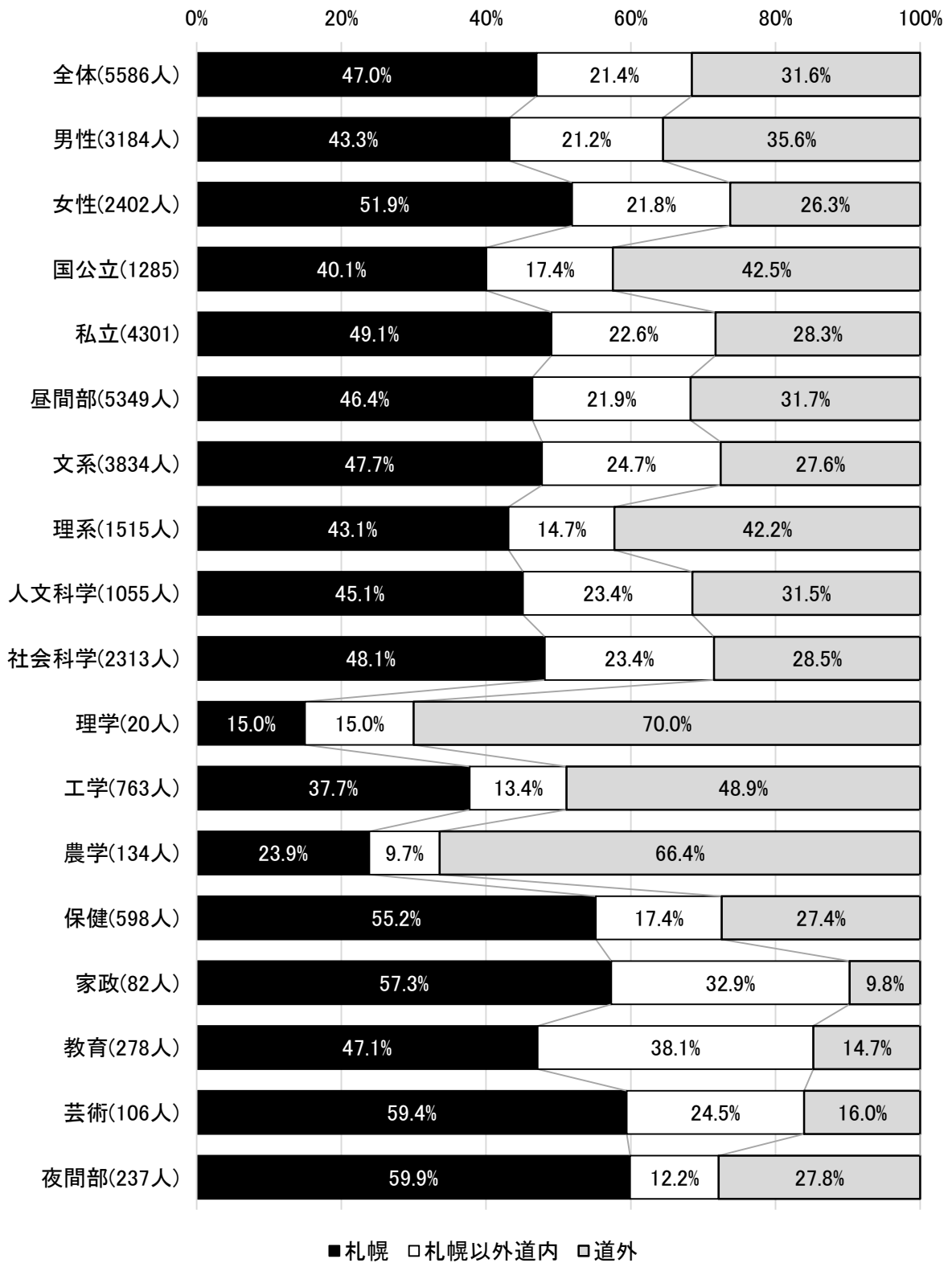
その他の区分も概ね「札幌」の比率が40～50%程度になっているが、専攻に関して「道外」が多いものをみると、サンプル数が少ないが「理学」で70.0%、「農学」で66.4%とそれぞれ過半数を超えているほか、「工学」で48.9%となるなど、「理系」でみても42.2%となり、「文系」の27.6%を14.6ポイント上回っている。

大学院卒についてみると、「総数」では「札幌」が26.5%と大学卒を20.5ポイント下回っており、「道外」は64.6%と大学卒を33.0ポイント上回っているが、「札幌以外道内」は8.9%と低い水準にある。

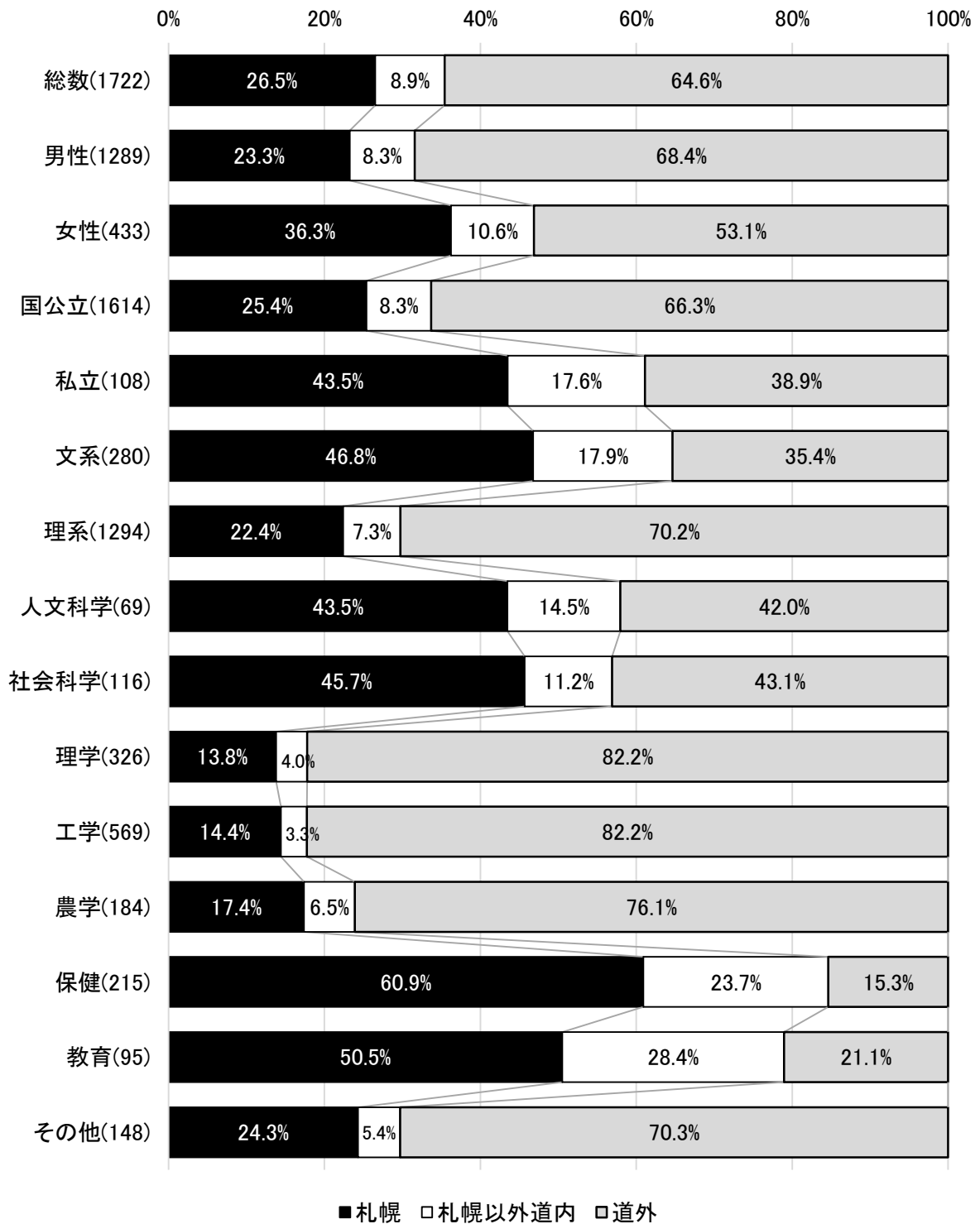
その他の区分については、「道外」について「国公立」(66.3%)が「私立」(38.9%)を大きく上回るなど、その傾向は大学卒よりも顕著になっている。専攻に関して「道外」が多い区分は、「理学」と「工学」の82.2%、「農学」の76.1%などとなっているが、「理系」も70.2%と7割を超える水準にある。

なお、「道外」が4割を下回る区分は、「保健」の15.3%、「教育」の21.1%、「文系」の35.4%、「私立」の38.9%の4区分となっている。

■ 大学卒の区分別就職先所在地（平成 26 年） ■



■ 大学院卒の区別就職先所在地（平成 26 年） ■



②ヒアリングによる就職の状況

②-1 ヒアリング結果による全体概況

※大学や学部によって就職状況に大きな違いあり

- 国公立と私立、文系と理系などで特に顕著
- ・異なる状況にあることから、それぞれで課題を整理し、対策を検討する必要あり

※全体的に当初の地元志向は強いが、結果的に道外に流出せざるを得ない状況

- 入学後3年前後で意識が変化する学生あり
- ・実際の就職活用に入る前に意識を啓発する取り組みが必要
- ・親の影響も大きい（概して地元、大企業志向）

※一部学生の就職に対する意識自体は決して高くない

- 就職に限定せず、人生設計やキャリアプランといった視点からのアプローチも必要
- ・就職や仕事に対する意識の底上げ
- ・個別の心理面や精神面などを見据えたカウンセリングも不可欠

※企業などの情報収集は学生側の自助努力が中心（ネット利用が一般的）

- ネット利用が中心となっている学生の情報収集に対するサポートも必要
- ・大学だけでなく、行政や支援機関が行える情報の整理や提供もあるはず

※道内企業の採用活動も、道外企業に比べて緩く、さらなる情報発信が必要

- 道内企業に対する意識啓発も必要
- ・道外企業の活用紹介など、「採用活動の実情」を企業側に情報発信

※地元中小企業の情報が少なく、就職先の有力な候補となっていない

- 学生側の意識啓発と同時に、企業側の情報整備や発信も必要
- ・行政や支援機関などによるデータの整備や発信が有効

②-2 国公立・私立別にみたヒアリング結果

※特に私立では地元志向が強い（ただし、最初から地元就職をあきらめている層も多い）

- 私立では当初から「地元」に絞った就職活動を行う学生も多い
- ・一方で「札幌圏なら地元就職は可能」との意見もあり
- ・同様に「地元企業のことをよく知らない」といった指摘も多い

※「地元には十分な就職先がそもそもない」といった意識も強い

- 道外企業に比べて採用活動が活発でないことも要因
- ・学生に対する充分かつ有効な情報提供を行っていく必要あり
- ・企業側の採用活動自体を活発化させる仕組みも必要
- ・例えば少なくない大企業志望の場合は、結果的に道外志向となる

②-3 学部・学科別にみたヒアリング結果

※私立文系では、事実上業種が選べない状態（採用数が少なく選り好みができない）

- 「業種」や「職種」よりも「地元」が優先している現実
- ・同じ地元就職であっても、数多くの選択肢（企業）を用意すべき

※理系では、就職が困難だから進学といった選択肢もあり

- 就職先の目処さえつけば、地元就職を選択する可能性あり
- ・全国との比較でも、「就職難」が進学につながっていないか

※理系で大手メーカー志望だと、必然的に道外志望とならざるを得ない

- 様々な選択肢（企業）があれば、判断が変わる余地あり
- ・地元志向があるにもかかわらず、仕方なく道外に就職する学生はいる

※医療系は就職が好調も、地元志向については大学によってばらつきあり

- 医療系は明らかに学生側の「売り手」市場
- ・同じ医療系でありながら、地元志向の度合いに違いがあるのは、地域とのつながりの差

4. 今後の取り組み

①調査結果から導き出された重要な課題

○大学や学部・学科によって置かれている状況がバラバラ

- ・このような就職環境の改善を図るためには地域における様々な連携が不可欠
- ・ただし、状況はそれぞれ異なることから、地域の大学間連携は緩やかに、テーマ別には深く設定する必要あり

○学生側、道内企業側双方の意識喚起が必要

- ・道外企業に比べ、取り組みは不十分であることから、意識喚起はもちろん、活動活発化に向けた「仕掛け」が必要

○道内企業の情報やマッチング体制が不足（情報収集は学生個人に依存）

- ・学生をターゲットにした情報発信をより充実させる必要あり
- ・ただし、地域の中小企業を前提とすると、個社別のマッチングには限界があることから、より大きな「枠組み」での取り組みが必要

②今後の方向性

○大学間連携のあり方検討

- ・例えば「北海道地区FD・SD推進協議会」などの取り組みなどを参考にできないか
- ・これら各大学の実情を考えると、表面上は緩やかに、テーマ別には深い（大学側が選べる）「連携」が望ましいのではないか
- ・企業、あるいは行政や関係機関の早い段階での参画も不可欠

○大学と企業の関係構築

- ・テーマによっては、大学（研究室・教員）と（採用側にもなる）企業との共同研究などもあることから、場合によっては採用との連動、連携も考えられないか
- ・ただし、こうした連携を実現させるためには、就職・採用に限らず、地域の大学と企業などの連携を予め深めておく必要あり
- ・学生だけでなく、地域の中高生に対しても「職業体験」などの機会をさらに充実させていくべき

○学生側と市内（道内）企業側の意識啓発

- ・学生側に対しては、各大学あるいは大学側の連携による直接・間接の対応が不可欠
- ・企業側に対しては、行政や関係機関などの協力が前提となる

○地元企業に関する情報発信の充実

- ・これまでの取り組みに加えて、地元企業のデータベース化などに取り組みないか

- ・リクナビなどのネット利用度が高いことから、これらを踏まえた新たな利活用方法が考えられないか
- ・OB、OGなども一部では貴重な情報源となっていることから、SNSを含めた活用方法が考えられないか

○新たなマッチング機会の提供

- ・たとえば「セコム」のように、地域の企業と連携して、企業情報の提供のほか、学生にとって利便性の高いセミナーやガイダンス、インターンシップの機会の提供などを包括的に行うことはできないか
- ・企業での実践的な職業教育、インターンシップの単位認定により、地域と大学の関係をさらに深めていくことはできないか
- ・個社別のビジネスモデル検討はもちろん、企業側が求める特定テーマ（技術開発やデザイン、マーケティングなど）の共同研究の推進などにより、関係強化を図ることはできないか

○地元企業に対する働きかけ

- ・人手不足が顕在化している業種（ホテルや運輸、建設など）も多いことから、業界団体等と連携して採用に向けた取り組みができないか
- ・例えば中小企業診断士などによる人材コンサルなど、新卒者の採用も念頭に置いた企業側への働きかけができないか（経済団体や診断士会などとの連携）

○道外就職者に対する働きかけ

- ・将来的なUターン等も考えている学生もいることから、既卒者などに対しても継続的な情報発信や就職活動などの機会提供を行って囲い込んでいくことはできないか

参 考 資 料

1. アンケート調査票
2. 平成 27 年度調査に関する協力要請状況一覧

市内大学生及び大学院生の地元就職促進施策検討調査 学生アンケート調査の実施について（お願い）

札幌市では、今後見込まれる人口減少や超高齢化社会に対応するための検討を進めています。特に20代の若者の道外への転出が、全年代の中で最も多い状況にあり、中でも市内の学生（大学生及び大学院生）の約4割が卒業後の進路として道外への就職を選んでいることが大きな要因となっています。

このような状況を踏まえ、札幌市では、北海道・札幌市の未来を担う学生の皆さんが、札幌で希望どおりに就職し、活躍していただくための施策を検討するにあたり、希望する勤務地や業種、就職活動を行うにあたって重視する点、市内中小企業の就職情報の入手環境などを調査し、計画の策定や施策の立案に活かしていきたいと考えています。

そこで恐縮ですが、本趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご記入、ご協力いただきますようお願いいたします。

◆ アンケートの概要

- このアンケートは、札幌市内の大学に在籍する大学生（4年生）及び大学院生（修士課程2年生）を対象に、実施しています。
- このアンケートは、無記名でお答えいただき、統計的に処理を行った上で、公表を行いますので、個人が特定されるものではありません。

◆ 記入上のご注意

- このアンケートは、ご本人が記入をお願いします。
- 質問ごとに、答えを「1つ」、「3つ」など指定してありますので、それに沿ってお答えください。

I あなたのことについて

問1 あなたの性別、年齢、年齢、所属（大学・学部・学科・年次）をお伺いします。

性別	1 男性	2 女性
年齢	_____歳（平成27年4月1日現在）	
所 属	_____大学 _____学部 _____学科 _____年	
属 大 学 院 生	_____大学大学院 _____研究科修士 _____年	

問2 あなたの出身地（実家がある都道府県市町村名）をお伺いします。

_____都・道・府・県 _____市・町・村

問3 あなたは、就職活動（※）を既に開始していますか？（○は1つ）

- 就職活動を開始している または、就職先が既に決まっている → **【問4へ】**
 - 就職活動をまだしていないが、今後開始する予定 → **【問5へ】**
 - 大学院への進学等を予定しており、就職活動は今後も行わない → **【調査終了】**
- ◎ここでアンケート終了です。ありがとうございます。就職支援担当部署にご提出ください。

※ ここでいう就職活動とは、インターンシップや就職支援サイトを使った情報収集、エントリー、企業説明会への参加、公務員試験の学習など。

II 就職について

問4 <問3で「1」を選択した方にお伺いします>

就職活動を開始する前と現在では、希望（予定）している「主な勤務地」に変化はありましたか？就職活動を開始する前と、現在の希望（予定）している「主な勤務地」について、それぞれ1つ選んでください。（○はそれぞれ1つ）

A 就職活動を開始する前の希望	1 札幌市内	2 札幌市以外の道内
	3 首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）	4 首都圏を除く道外（府県名：_____府・県）
B 現在の希望（予定）	1 札幌市内	2 札幌市以外の道内
	3 首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）	4 首都圏を除く道外（府県名：_____府・県）

問5 <問3で「2」を選択した方にお伺いします>

現在予定している「主な勤務地」は、どこですか？ 未定の場合は、最も可能性が高いものを選んでください。（○は1つ）

1 札幌市内

2 札幌市以外の道内

3 首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）

4 首都圏を除く道外（府県名：_____府・県）

5 海外（国名：_____）

問6 <問4または問5で「3、4、5」のいずれかを選択した方にお伺いします>

道外を「主な勤務地」として希望（予定）する理由は何ですか？ 次の選択肢の中から、最大3つまで選んでください。（○は3つまで）

1 本当は道内で就職したいが、道内企業の就職に	2 道内で就職したいが、賃金や雇用の安定性など条件面で希望に合う企業が道内に少ないから
3 競争が激しいながらも、自分が成長できる環境	4 自分の専門分野や技能を活かせる仕事につきたいから
5 元々道外出身であるため、自分の地元やその近くで就職したいから	6 海外との取引などグローバルな仕事に携わりたいから
7 知名度のある大手企業に勤めたいから	8 道外の方が、アルバイトが充実しそうだから
9 北海道・札幌の風土が好きではないから	10 その他（_____）

問7 あなたが、現在希望（予定）している「業種」（営業や販売といった「職種」ではありません）について、希望する業種（日本標準業分類）の産業大分類を最大3つまで選んでください。（○は3つまで）

1 農林漁業（農業・園芸サービス業などを含む）	2 鉱業（金鉱業、原油・天然ガス鉱業、採石業など）
3 建設業	4 製造業（食品品製造業や繊維工業、印刷業、鉄鋼業などを含む）
5 電気・ガス・熱供給・水道業	6 情報通信業（放送業や新聞業、出版業、広告業などを含む）
7 運輸業（鉄道や旅客運送業、貨物運送業、航空運送業など）	8 卸売業、小売業
9 金融業、保険業（クレジットカード業などを含む）	10 不動産業、物品賃貸業
11 学術研究、専門・技術サービス業（※1）	12 宿泊業、飲食サービス業
13 生活関連サービス業、娯楽業（※2）	14 教育、学習支援業（学習塾や音楽教室などを含む）
15 医療、福祉（社会福祉・介護事業などを含む）	16 複合サービス業（郵便局や福祉、漁協、森林組合など）
17 その他のサービス業（※3）	18 公務

※1：各種研究所や法律事務所、公認会計士事務所、税理士事務所、経営コンサルタント業、広告代理店業、建築設計業、測量業、写真業など。

※2：美容、理容、浴場業、旅行業、結婚式場業、スポーツ施設提供業、ハウスクリーニング業など。

※3：廃棄物処理業や自動車整備業、機械等修理業、職業紹介・労働派遣業、養育業、政治・経済・文化団体、宗教など。

問8 就職先を選ぶにあたって、次の項目についてどの程度重視していますか？

※それぞれ○は1つ		特に重視	やや重視	あまり重視しない	全く重視しない
A	転勤がない、または少ないこと	1	2	3	4
B	家族や知人が近くに住む地域であること	1	2	3	4
C	企業等に成長性や将来性があること	1	2	3	4
D	賃金が高い、または福利厚生が充実していること	1	2	3	4
E	企業等に知名度がある、または企業規模が大きいこと	1	2	3	4
F	企業等の組織の雰囲気や社風が自分に合っていること	1	2	3	4
G	グローバルな仕事ができること	1	2	3	4
H	やりたい仕事ができるチャンスに恵まれていること	1	2	3	4
I	大学で学んだ専門分野が活かされること	1	2	3	4
J	仕事とプライベートを両立できること	1	2	3	4
K	家族や指導教授の勧め	1	2	3	4
L	企業等に知り合いや先輩がいること	1	2	3	4

問9 市内中小企業（※）は、あなたの大学卒業後の就職先の対象となりますか？（○は1つ）

1	極めて有力な対象先	2	有力な対象先	3	対象先の一つ	4	対象先として有力ではない	5	対象先ではない
---	-----------	---	--------	---	--------	---	--------------	---	---------

※札幌市内に本社を置き、従業員が300人未満の企業のこと。

問10 あなたが市内中小企業への就職を検討する場合、必要な情報が十分に提供されていると感じますか？（○は1つ）

1	十分に提供されている	2	ある程度提供	3	少し足りない	4	かなり足りない	5	全く不十分
---	------------	---	--------	---	--------	---	---------	---	-------

問11 市内中小企業の魅力を紹介する機会を通じて、どのようなことを知りたいですか？

次の選択肢の中から、最大3つまで選んでください。（○は3つまで）

1	賃金や福利厚生などの雇用条件	2	企業の概要や社員の仕事内容
3	企業の将来性や今後の事業展開	4	企業の社風や働く人の雰囲気
5	仕事のやりがい	6	求める人物像
7	社員のキャリアアッププラン	8	入社後の研修
9	若手社員の定着状況	10	採用の選考方法・選考基準
11	地元で働くことの魅力	12	その他（ ）

問12 あなたが市内中小企業に就職して活躍するためには、何が必要ですか？（自由記入）

問13 市内中小企業の就職に関する情報の入手手段として、下記の項目について、どの程度重視しますか？

※それぞれ○は1つ		特に重視	やや重視	あまり重視しない	全く重視しない
A	大学内での企業説明会	1	2	3	4
B	学生有志による就職支援組織による企業説明会	1	2	3	4
C	民間企業や自治体が主催する合同説明会	1	2	3	4
D	ホームページ、カネ等の公的機関の就職支援窓口	1	2	3	4
E	大学の就職支援担当部署からの求人提供	1	2	3	4
F	市内中小企業へのインターンシップ	1	2	3	4
G	現地企業見学ツアー	1	2	3	4
H	リクナビなど就職支援サイトの情報	1	2	3	4
I	市内中小企業のホームページやSNS	1	2	3	4
J	大学の指導教員や就職支援担当者の勧め	1	2	3	4
K	大学OB、OGからの情報	1	2	3	4
L	家族や知人からの情報	1	2	3	4

※以上の項目には新卒就職者向けに提供されていないものもありますが、もし提供された場合を想定して、評価を行ってください。

IV インターンシップについて

問14 どのような内容のインターンシップに最も興味がありますか？（○は1つ）

1	会社・職場見学	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> <p style="text-align: center;">【問 15】</p> </div>
2	実際の職場での仕事体験	
3	グループワーク（企画立案、課題解決、プレゼンなど）	
4	社員の講義・レクチャー	
5	就職に直結する選考を兼ねたインターンシップ	
6	インターンシップに興味はない	

問15 インターンシップの期間で最も望むものは、どれですか？（○は1つ）

1	1～3日間	2	1～2週間程度	3	2～3週間程度
4	3～4週間程度	5	1か月程度	6	1か月以上

問16 インターンシップに参加する目的は何ですか？ 最大3つまで次のの中から選んでください。（○は3つまで）

1	志望する業界で働くことを経験するため	2	特定の企業のことをよく知るため
3	自分の専攻が社会で役に立つか知るため	4	仕事に対する自分の適性を知るため
5	企業で「働く」経験をjするため	6	自分が何をやりたいのか見つけるため
7	就職活動に有利だと考えるため	8	単位を得るため
9	ビジネスマナーを身につけるため	10	学生生活での目標を見つけるため

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
記入を終えた調査票は、所属大学の就職支援担当部署の窓口にご提出ください。